

第87回デメンシアカンファレンスを開催

2022年8月19日

8月19日（金）に福井大学が担当する北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）「第87回デメンシアカンファレンス」をWeb上で開催しました。

「非薬物療法により生活維持が可能であった高齢認知機能低下症例」のタイトルで、金沢医科大学からの症例報告が進められ、活発に質疑応答や意見交換が行われました。

症例発表の様子とスライド



非薬物療法により生活維持が可能 であった高齢認知機能低下症例

金沢医科大学病院 認知症センター
奥野 太寿生

第 87 回 デメンシアカンファレンス 報告要旨

『非薬物療法により生活維持が可能であった高齢認知機能低下症例』

発表者：奥野 太寿生（金沢医科大学 高齢医学）

司会：入谷 敦（金沢医科大学 高齢医学）

【要旨】

症例は 85 歳女性。主訴はもの忘れと目的のはっきりしない外出で、同居している次女と受診された。X-5Y の右大腿骨頸部骨折受傷後より徐々に認知機能は低下していたが、X-1Y に夫死去されてから低活動が目立ち、概日リズム障害が出現していた。郵便局員時のことを思い出して配達物を探すことが増加し、目的もなく外出することが増えたため当センター受診に繋がった。

現症・家族歴はなく、既往歴に右大腿骨頸部骨折がある。次女夫婦と同居しており、飲酒・喫煙歴はない。学歴は 12 年、60 歳まで郵便局員として働いていた。利き手は右利き、バイタルサインや神経学的所見の異常は認めなかった。神経心理検査では MMSE:19 点と見当識・計算・遅延再生で失点あり。GDS:15 点、PGC モーラースケール:4 点とうつ傾向を認めた。頭部 MRI では前頭葉・側頭葉・頭頂葉の萎縮、脳血流シンチでは前頭葉-頭頂葉・後方帯状回の血流低下を認めた。生活リズム改善のため介護サービスの導入を進めたところ、デイサービスを週 3 回行くようになり BPSD が低減した。フォロー中の認知機能低下なく非アルツハイマー型認知症と診断し、近医でのフォローに切り替えた。

その後 X+2 年に一時的に郵便物への固執が出現し、孫が患者の認知機能低下が進行したと考え再受診された。受診時には固執軽快しており、バイタルサインや神経所見、画像検査では前回と比較し変化なく、MMSE:18 点と失点項目も同じだった。改めて非アルツハイマー型認知症と診断し、孫への疾患教育・精神的サポート(主介護者である次女とともに月 1 ケアマネと相談できる体制を構築)を行った。

今回の症例では患者の状態に大きな変化はないが、介護者の捉え方の違いによって受診が必要となった 1 例を経験した。患者の生活リズム改善だけでなく、介護者への疾患教育や精神的サポートを行うことで BPSD 低減・生活の維持が可能であり、非薬物療法が重要であると再認識した。

【質問・意見】

- 安定している方は 3-6 か月空けてフォローすることも多い。
- PART や LATE 等の概念があるため、高齢の比較的ゆっくり進行する認知症の呼び方としては非アルツハイマー型認知症でも間違っていない



北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

第87回デメンシアカンファレンス(Web)

非薬物療法により生活維持が可能 であった高齢認知機能低下症例

2022年8月19日(金) 18:30~20:00

発表者 金沢医科大学病院認知症センター 奥野太寿生

担当 金沢医科大学

対象 参加施設及びその他の施設の医療関係者

(医療系大学の学生含む)

【参加方法】

個人のパソコンからWeb会議システム (WebEX) を使用

教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営事務局からメールで参加案内をお送りします。案内状のメールに従って会議にご参加下さい。

上記以外で参加を希望される方は8月18日までに氏名とメールアドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせください。

(ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)

教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事務局が確認します。

お問い合わせ

北陸認プロ運営事務局

〒 920-8640 金沢市宝町13番1号

TEL 076-265-2149 / FAX 076-234-4208

E-mail ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp URL <http://ninpro.jp/>